

わき

議会だより

第130号 2023.2.1

共同作品タイトル

☆みんな
えがすき♡.o☆



子ども絵画教室

子育て応援給付金はじまる p 2・3
女性による町づくり懇談会 p 4・5
もっとくわしく聞きました p 6
一般質問 p 7～11
インタビュー p 12



和木町議会広報広聴常任委員会 E-mail: gikai@town.waki.lg.jp

12月
定例会

出産・子育て応援交付金はじまる

妊娠時から一貫した伴走型相談支援と経済的支援

12月定例会は12月12日から20日までの9日間で開かれました。議会は、報告2件、議案12件を審議し、和木町職員の定年や育児休業等に関する条例の一部改正、和木町下水道条例の一部を改正する条例等を、原案の通り全会一致で可決しました。補正予算では、国からの新しい交付金制度として出産・子育て応援交付金（700万円）・高齢者支援商品券給付事業（575万円）や障害児通所給付費（783万円）について詳しく問いました。一般質問には、5人の議員が登壇し、行政全般にわたる議論を展開して町政を問いました。

専決処分

コロナ禍の影響が長期化するなかエネルギーや食料品等の物価高騰により、生活・くらしを支援するため9月に創設・交付された、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」1762万円を活用し、高齢者に5千円分の商品券を1150人分、子育て給付金1万円を1200人分支給する。

*子育て給付金

問 和木町子育て給付金事業に所得制限はあるのか。

（灰岡議員）



保健相談センターにて

答

令和4年4月1日時点で18歳未満の児童を対象としており、所得制限はない。

問

高齢者支援商品券給付事業の対象年齢を73才にした理由と配布の方法について問う。

答

和木町敬老会が73歳以上なので合わせた。商品券を特定記録郵便で各戸に配布する。

補正予算

人事委員会勧告を受けた職員給与の調整や、国の補正予算で創設された出産・子育て応援交付金を活用した町独自の交付金事業、エネルギー価格の高騰に伴う庁舎・施設等の燃料及び光熱水費等、

6949万円を追加補正。これにより一般会計予算額は45億3713万円となる。

*町独自の給付金事業

問 障害児通所給付費783万5千円について問う。

（中村議員）

答

児童発達支援が1名増えて12名となり、放課後デイサービスが3名増えて21名の利用となったため780万円の増額となる。

加えて高額障害児通所給付費が1世帯増えて4世帯となり3万5千円の増額となる。

問 出産・子育て応援給付金事業700万円の内容は。

（上田議員）

答 国の事業で妊娠期から出産、子育てまで一貫して相談

に応じ、様々なニーズに対応し、安心して出産、子育てができる事を目的とする。

妊娠届や出生届を行った妊婦等に対し、出産、育児関連用品の購入助成で5万円の70人分で350万円。

子育て支援サービスの利用負担軽減を図る経済的支援で5万円の70人分で350万円である。

問 戸籍住民基本台帳管理事業とは。(森脇議員)

答 マイナバーカードの申請機会をより多く確保するため、和木郵便局へ申請サポート業務を委託する事業。1月中旬から開始予定。



マイナポイント受付中

***下水道一般管理事業**

問 汚水中継ピットポンプ取替工事(120万円)は定期的に行っているのか。(上田議員)

答 定期的に点検し、不備が出た場合には早めの交換を実施している。

***町職員の育児休業取得に対する緩和**

問 夫婦交代で2回ずつの4回、育児休暇が取れることになった。過去に和木町の職員で育児休暇を取った事例はあるか。

答 (上田議員) 女性とは通常どおりに取っている。昨年とその前にも男性職員も育児休業を取得している。

***下水道料金の改正**

月11〜100³mまでの超過料金1³mにつき189円を208円、101〜1000³mまでの超過料金



和木ポンプ場

金を248円から266円に改定する。一般家庭を例に挙げると2カ月で40³m使用した場合380円の増額になる。基本料金の変更はないので基本水量内の2カ月で20³mまでは変更がない。

問 今回の下水道料金の改定の理由と上げ幅について問う。

答 (森脇議員) 令和6年4月から公営企業会計に移行することにより、人件費や維持管理費の増加が見込まれる。下水道会計の収支バランスの均衡が必要となるため改定する。上げ幅は大竹市と同様の約8%となっている。

常任委員会視察研修報告

10月4日から6日まで、総務文教常任委員会3名と民生建設常任委員会5名は香川県綾歌郡宇多津町で開催された全国コンパクトタウン議会サミットに出席し、その後同町のファミリーサポートセンターうたづ、ライブラリーうたづ、南部給食センターを視察研修しました。

臨時議会

臨時議会を10月25日に開催し、次の3件を審議しました。

○「固定資産評価審査委員の選任」
弘中 誠さんが選任され、専決処分を議会は承認しました。

○国からの臨時給付金3520万円を利用し、非課税世帯に5万円を600世帯、家計急変世帯に5万円を交付する。

問 臨時給付金の交付手順を問う。(上田議員)

答 非課税世帯については、プッシュ型で行う。
家計急変世帯については、役場窓口で相談受付をする。

○文化会館照明設備改修工事の請負契約5280万円で締結

問 工事の入札と工事内容、工事期間を問う。(嘉屋議員)

答 入札参加は4社。工事の内容は、文化会館の舞台照明器具の一部をLED化するものである。

工事期間は10月26日から令和5年3月31日を予定。

づくり懇談会

暮らしやすい町に」

に』と題して、女性と議員の町づくり懇談会を開催しました。
しました。懇談会の意見や内容について行政に問いました。



教育委員会委員の実情を教えて

問 委員の選定基準や選定方法、仕事内容、会議議事録の開示は。

答 地方教育行政に関する法律に基づき、町長が議会の同意を得て任命している。選定対象者は和木町長の被選挙権を有し、人格が高潔、教育・学術及び文化に関し識見を有する方で、年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮している。会議の要点議事録はホームページで公開している。

幅広くICT教育を利用

問 不登校の子どもがタブレットを使っている学校や担任と繋がることはできないか。

答 不登校児童生徒への端末の貸出は可能な状態だが、家庭環境や不登校の原因は様々で全ての児童生徒に当てはまるとは限らない。貸出は担任と保護者が協議して決定している。現在、貸出を利用して授業への参加を希望する児童生徒はいない。

高齢者に優しくスマートフォン教室

問 スマートフォン教室を開催しているが、どんな状況か。

答 年3回実施する。1・2回目の開催状況は、講師1名スタッフ3名の体制で教室を運営。参加者からは「参加してみてもよかった」との好評を得た。

老朽化した歴史資料館

問 歴史資料館の有効利用や活用が進んでいないが、今後どうするのか。

答 完成から30年以上が経過し設備の老朽化が進行。現在、学芸員もおらず展示物の管理、企画等の実施も困難な状況で、大規模な予算をかけてリニューアルすることは現実的ではなく、存続・移転・廃止を含めて検討中。



いろいろな立場の女性から多くの意見をいただきました

その他の問題点や要望

子育て・福祉

- 子どもと高齢者が集える場所がほしい。
- 幼稚園、保育所跡地に子育て支援の施設をつくってほしい。
- 子供と同居の場合、ヤクルト、パンの配布がなく、高齢者福祉タクシー券ももらえない。対象者の制限を緩和してほしい。
- 社会福祉協議会の福祉用具の貸出の理解を深めるために制度の説明と用具を試しに試してみることや体験することはできないか。

- アレルギーを持つ児童の弁当材料費の補助はできないか。
- 子育てサロン「たんぽぽ」の場所が遠いので検討してほしい。
- 若い世代がボランティア活動に参加できるようなイベントを補助金を出して開催できないか。
- ボランティア団体等のメンバーが固定化され行き詰まっているので行政に応援、補助してほしい。

生活・環境

- 行政対応で野良猫対策、例えば広島のような「さくらねこ対策（避妊手術）」をできないか。
- 細い道でも通行できるような小型バスの導入を。

女性による「もっと



議会は11月12日に『女性による「もっと暮らしやすい町」
当日は、様々な意見が出され、住民意識の高さを実感した

町内の下水道管

問 町内の下水道管の老朽化が心配されるが、町の対応は。

答 本町の公共下水道は昭和49年に供用を開始し、まもなく50年を迎える。
町はストックマネジメント計画を作成している。なお、国の指導により公共下水道特別会計事業を公営企業会計へ移行させることとなり、現在令和6年4月からの適用に向けて作業を進めている。

和木町に
対する鋭い
質問や確認事項も
ありました

広報「わき」のありがた

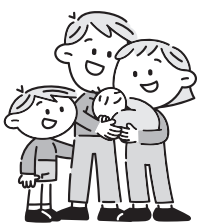
問 掲載写真をもらったが、画質が悪く鮮明でなかった。

答 写真は町職員が撮影したものと外部提供によるものがあり、町職員撮影写真はより良い画質のものを選定しており、画像データ自体が荒い可能性は低い。外部提供写真はカメラや携帯電話の性能などにより、時折、画像データ自体が荒い状況がある。また、印刷プリンターが原因の可能性もある。今後、画質が悪い場合はその理由を説明したうえで提供したい。

ファミリーサポートセンター

問 親が働いており、子どもが一人で家にいるのが心配なので、和木町でもファミリーサポートセンターの制度はつくれないか。

答 町単独実施は、多額の予算を計上し、ファミリーサポートセンターを設置しても、事務局のマンパワー不足、ボランティアスタッフ登録者数及び利用者数などの問題点が多く、現段階では非常に困難である。また、岩国市との共同実施及び広島広域都市圏協議会での実施についても問い合わせたところ、「実施できない」との回答である。



防災

- ・ 駅発着のバスをJRの時刻表に合わせられないか。
- ・ バスの蜂ヶ峯線の便を増やしてほしい。
- ・ 高齢化に向けて、バスを継続してほしい。
- ・ 高齢者用の町営住宅を増やしてほしい。
- ・ シルバー人材センターの会員が減少しているので会員を増やせないか、また利用を増やすために広告を出して周知したらよいのでは。
- ・ 未就学児の遊び場とボール遊びができる公園がほしい。
- ・ 大人も使える健康遊具がほしい。
- ・ 遊具が古くて少ないので充実させてほしい。
- ・ 幼稚園跡地で子どもたちが遊んでいるが、安全なのか。
- ・ プレミアム商品券の500円券を作してほしい。
- ・ プレミアム商品券を大竹市、岩国市でも利用できるようにしてほしい。
- ・ つつじヶ丘に上がる水道管の老朽化は大丈夫か。
- ・ 防災訓練を自治会単位で実施できないか。
- ・ 災害避難時のネットワークを作してほしい。

もっとくわしく聞きました

教育

文化会館の照明工事

(小林委員)

問

LED照明工事の状況と
その後の予定と金額は。

答

工期10月26日から令和5
年3月31日まで、契約額5
280万円。2カ月間ステージ・
ホールが使用不可となるため各種
団体に周知。4月1日以降ス
テージ・ホール使用を再開予定。
以降の工事計画については、令和
9年度まで段階的に予算要求し実
施する予定。

小中学校のタブレットの取 扱い

(灰岡委員)

問

岩国市の中学校職員室で教
員の会話が録音されて校内に
漏れ、教員、生徒共に登校できな



今後対応が検討されるタブレット

答

岩国市の中学校職員室で教
員の会話が録音されて校内に
漏れ、教員、生徒共に登校できな
くなった問題に対して、本町では
小中学校にどのような対応を取っ
ているのか。

答

学校情報セキュリティポ
リシーに基づき、タブレッ
トを使用していないときは、各教
室にある鍵付きの保管庫に片付け
るよう指導。今回の問題を受け、
小中学校には対応を徹底するよう
再度伝達した。

通園バスの置き去り防止

(灰岡委員)

問

園児が通園バスに取り残
され、熱中症で死亡した事
件が起きたが、本町の対応と今後
の取組みは。

答

通園バスの登園時の対応
については、添乗職員が乗
車前に欠席や通院などを確認。名
簿入りの添乗ファイル、非常時に
備えて携帯電話を持って乗車。園
到着後は、添乗職員が座席後ろか
ら降車させ、再度整列をして確認。
各保育室まで連れていき、園児を
担任に引き渡す。運転手がバス最
後部座席から居残りや忘れ物を確
認。チェックシートに記入。降園
時と同様に乗車園児の確認。家庭
へ引き渡すときは、保護者証で確
認。万が一、保護者がいない場合
は園バスで連れ帰り、家庭連絡を
取る。登降園時の通園バス記録と
して、必ず日誌に記入を行っている

生活・環境

和木5丁目集会所辺りの異臭

(嘉屋委員)

問

原因は。集会所前の道路に
は、国道からの水路があるが、
定期的に点検整備は行われている
のか。

答

和木ポンプ場内の脱臭装
置のトラブルにより、臭気
が水路を通じて広がったもので現
在は復旧。今後も脱臭装置をはじ
め、ポンプ場内の機器類の点検、
管理を適切に行う。

国道から潮廻し水路の点検は、
月に1回、職員による道路パト
ロールの時に実施。

新型コロナウイルスの感染 状況

(上田委員)

問

感染者の発表が地域ごと
に変更になり、感染者の把握が
難しいのでは。

答

オミクロン株の特性を踏
まえて全国一律で、新型コ
ロナウイルス感染症と診断された
方の、住所地等の詳細情報の報告
である発生届は、65歳以上の方や
妊婦の方など重症化リスクが高い
方に限定。県が行う発生状況の公

基金

和木町福祉基金の活用

(兼本委員)

問

福祉基金を創設した当時の
状況と現況の基金積立額は。
今後、特定の目的事業の財源とし
て活用する計画は。

答

平成3年度に国は、地域主
導による高齢者保健福祉施策
を促進するため、「高齢者保健福祉
推進特別事業」を実施。その事業の
一つとして地域福祉基金の設置が推
奨された。本町では、同年に基金条
例を公布し、地方交付税により基金
を設置。

現在の残高は1億1955万
円。基金元金の取り崩しについて
も問題はないと認識しているが、
現時点では取り崩しでの事業実施
は検討していない。



土曜の保育は どうしているのか

なかむら みつこ
中村 充子 議員



教育委員会事務局長

前々日までの希望保育に応じて 職員を配置している

質問 土曜の保育は手薄で危険をはらんでいないのか。

土曜日の保育について、管理職は交替で出勤されているのか。

保育者の人数と土曜の希望保育により保育士の人数を削減しているのか、土曜の保育体制は。

事務局長 土曜保育は、前々日までの希望保育に応じて職員を配置している。

基本体制は、園長及び副園長2名の管理職3名と主任保育教諭5名の計8名の交代制としており、1名以上が必ず出勤している。

現在、土曜保育の基本的な職員体制は6名としており、保育教諭3名と会計年度任用職員3名が教育・保育活動に従事している。

質問 こども園の3歳未満児の定員により兄弟別の施設に預けざるを得ない家庭がある。どのように考えるか。

こども園の3歳未満児の定員により兄弟別の施設に預けざるを得ない家庭がある。どのように考えるか。

事務局長 こども園の兄弟姉妹の利用は、3号こどもは町外施設を利用し、2号こどもはこども園に在籍している家庭が1組ある。

職場が近くであることや、こども園に入らず、町外の施設を利用して環境に慣れたので継続して翌年度も町外の施設を希望される方もいる。

こども園の3号こどもの入園にあたっては、定員以上に申込がある場合の利用調整は、和木町特定教育・保育施設等利用調整基準表に基づき、保護者の状況などに応じ保育の必要性などから優先順位をつけ、優先度が高い児童から、入園を決定している。

こども園に入園できなかった方は、町外施設を探すことになる。こども園の3号こどもの定員については、0歳児が12人、1歳児が24人、2歳児が30人となっている。共働き世帯が増加し、定員を上回る申請があり利用

調整を行った結果、兄弟姉妹が別々の施設に行くことになるケースも出てくる。3号こどもの定員は、出生数等鑑みながら今後の検討課題だ。

質問 幼稚園と保育所の跡地についてどうなるのか。

町長 こども園開園以降、PRE活用検討委員会及び同ワーキンググループを設置し、跡地活用について検討を行ってきたが、コロナ禍の影響もあり、具体的な進展はみられない。

既存建物の老朽化も進み、解体も必要になると考えているが、多大な費用が見込まれることなど財源の議論も含め、有効な活用方法を見出していききたいと考えている。



工事により臨時駐車場になっている旧幼稚園



駐車場になったため遊ぶことができない総合遊具

Q 老朽化した町営住宅を どのように考えているのか

かや とみひろ
嘉屋 富公 議員



都市建設課長 用途廃止の方向で検討

質問 令和4年11月末で築50年を超える町営住宅は何世帯分あって、何世帯入居しているのか。また高齢者や独居老人の比率は。

課長 町全体で135戸あり、33世帯が入居している。残り102戸は入居停止をかけている。65歳以上の高齢者の割合は約55%で、独居老人の比率は約48%となっている。

質問 地震等の災害で老朽化した町営住宅が崩落した場合、責任問題はどうなるのか。

課長 町が管理している町営住宅なので、町として責任を持って対応していく。

質問 町全体で築50年以上の町営住宅の敷地面積はどのくらいあり、そこを評価価格で計算するといくらぐらいの資産になるのか。

課長 全体で約1万3千㎡（約4千坪）あり、固定資産税の近隣路線価での評価は、約4億円程度になる。

質問 老朽化した町営住宅を解体して、分譲住宅として売却できないか。また、旧保育所の跡地だと医療機関にも近く、最適な場所と考える。

人口増加も考え、旧保育所跡地に高齢者向け集合住宅を設置して収入にあった家賃で入居していただき、高齢者にも安心して暮らせる場所の提供はできないか。

質問 33世帯の方にもできるだけ早く安全な場所に居住してもらうために旧保育所跡地を更地にして、高齢者住宅を造り、後に町営住宅を解体していく方法をとれないか。

課長 旧保育所跡地については、旧幼稚園跡地と併せてPRE（公的不動産）の活用検討委員会で検討していく。

課長 今年度末を目途に町営住宅長寿命化計画の見直しを進めている。この計画は30年後の将来を見据えた住宅の必要戸数を算定し、必要戸数に応じた住宅の整備方針を定めるもの。老朽化住宅については、用途廃止の方向で検討を進め、跡地の処遇については宅地として売却をすることも考えている。なお、将来予測から新しい住宅を整備することは考えていない。

質問 町では戸別受信機

***防災行政無線は迅速で正確に**



頼りになる戸別受信機

設置も整備されているが、防災行政無線の使用は近隣の市と比べ内容や速さに欠けていると感じる。迅速で正確に細かく流せないか。

企画総務課長 大雨等の気象条件

による避難指示は他市町でも同様の基準で発令している。町の放送が遅いのではなく、地理的状況と気象条件に由来し、隣接する自治体よりも警報基準に到達するのが遅いことが原因と考える。放送内容は、緊急性・重要性の高いものを優先している。

Q 带状疱疹ワクチン接種の助成を

くりもと えいこ
栗本 詠子 議員



保健福祉課長 効果や持続性について調査、研究したい

質問 带状疱疹は、80歳までに約3人に1人が発症すると言われてい

る。予防には50歳以上を対象としたワクチンがあるが、その効果をどのように考えているか。

課長 「予防接種ガイドライン」では、平成

28年に水痘ワクチンが50歳以上の者の予防効能・効果について追記され、50歳代93・8%、60歳代91・6%、70歳代78・6%が免疫上昇したと報告されている。

また、平成30年に乾燥組換えワクチンが承認され、有効性50歳以上97・2%、70歳以上89・8%との報告がある。

質問 带状疱疹ワクチン

の推進は。

課長 予防接種法上、現

時点では任意接種となっており、効果の周知や接種勧奨は実施していない。

現在、厚生科学審議会に

おいて予防接種法に基づく定期接種化に向けた議論がされている。今後、国の動向を注視していきたい。

質問 任意の高額自己負

担の接種となる带状疱疹ワクチンの助成についての考えは。

課長 効果や持続性につ

いての情報収集に努め、町内医療機関の専門家の意見を聞きながら、調査、研究したい。

***町の人口減少をどう考えるか**

質問 日本では人口の減

少や高齢化が進んでいるが、本町でも同様に人口が減少して11月にはついに五千人台となった。

国や県、各自治体では、3世代同居・近居に対する支援策を行っているが、本町では3世代同居・近居の促進策についての現行、今後の検討は。

企画総務課長 既に実施している

住宅建設奨励金制度や利子補給制度に上乗せで行う相乗効果、費用対効果の有無など、事業化の是非を検討すべきかと考えている。

質問 他の自治体では、

独自の様々な定住促進政策がある。新たなU・I・ターンに対する補助制度、定住促進政策の現行、今後の検討は。

課長 現在、県内全域で

移住支援事業支援金制度を創設しており、対象要件を満たす移住者に対して助成制度がある。本町でも県と一緒に進めている。

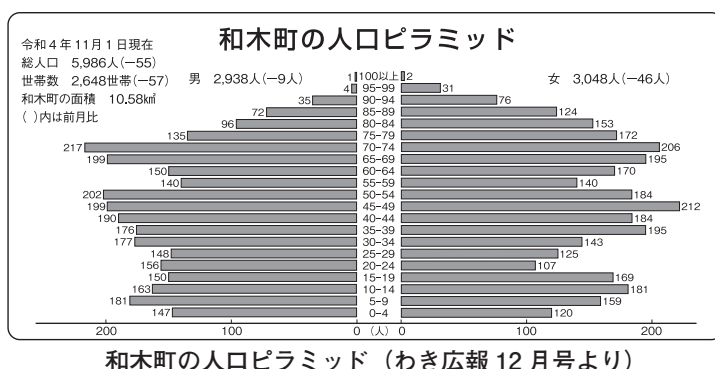
質問 人口減少及びその

対策として、町長の

町長 減少率は他町村に

比べて低いものの年間約1%程度となっている。全国的な人口減少という大きな流れに歯止めを

けることは非常に難しい課題である。基本的に「少しでも豊かに暮らせる」「本当に困っている方が少しでも楽になる」を優先して施策を考えることが人口減少を緩やかにすることに繋がると期待している。



Q AEDの町内設置場所は どうなっている

もりわき あけみ
森脇 明美 議員



企画総務課長 公共施設11カ所に16個設置している



文化会館に設置してあるAED

質問 和木町内のAED
の設置場所を伺う。

課長 こども園2個、小
学校3個、中学校1
個、体育センター2個、コ
ミュニティセンター1個、
保健相談センター1個、文
化会館1個、蜂ヶ峯公園2
個、役場1個、瀬田分館と
関ヶ浜分館に各1個合計
11カ所に16個設置済みであ
る。不二ビルサービスの管
理で和木駅に1個置いてあ
る。

質問 救命講習受講者の
現状と今後の講習普
及活動について問う。

課長 年に一度、職員及
び会計年度任用職員
や町営プールの監視員等を
対象に普通救命講習を開
催。岩国地区消防組合の職
員が講師として来て、AED
や心肺蘇生法の練習や説
明を行っている。今後も継
続して講習を開催する。

*町政50周年記念 事業は

質問 和木町を築いてき
た先人への感謝を込
め、町の歴史を考え文化や
生活の記念誌を作成しては
どうか。

課長 記念事業について
検討中で、先人への
感謝や、町の歴史や文化に
触れる機会を設ける企画
も、案としてあがっている。

質問 10年後、20年後の
和木町の将来を見据
え、住民参加型のイベン
トの企画を問う。

課長 記念事業の基本理
念は、町民一人ひと
りが主人公として祝い、す

べての人が笑顔にあふれ、
わきあいあいと楽しむこと
で、この理念に沿ったかた
ちで住民参加型のイベン
トを検討している。

*蜂ヶ峯総合公園の 現状と今後は

質問 蜂ヶ峯総合公園管
理協会の人員体制と
運営状況を伺う。

課長 正規職員2名、臨
時職員7名の体制で
運営。草刈りや剪定等はシ
ルバー人材センターを活用
している。繁忙期、イベン
ト時には、民間業者への委
託も含めて対応する。

質問 人気のローラー滑
り台は小さいお子さ
ん連れのお母さんや高齢者
には、階段は大変厳しいよ
うだ。このローラーすべり
台へのリフトを修繕して再
利用できないか。

課長 修繕での対応は困
難であり、改築には
多大な費用が必要だ。今後、
ローラー滑り台の改築にあ

わせた再整備を検討する。

質問 蜂ヶ峯総合公園管
理協会と地域振興協
会（Bee+エリア）の連
携を問う。

課長 公園管理協会が地
域振興協会と管理委
託契約を締結し、運営を任
せている。町都市建設課、
公園管理協会、地域振興協
会、メイプルシティ等によ
る運営者会議を定期的に開
催し協議を行っている。

質問 蜂ヶ峯総合公園の
今後をどう考えてい
るか。

町長 リフトカーひとつ
取っても億単位のお
金がかかる。
一朝一夕に物事が進んで
いく訳ではないが、できると
ころから計画を段階的に踏ま
えていき、きれいに整備して
いきたいと考えている。

Q 学校給食でお弁当持参への補助はできないか

うえだ じょうじ
上田 丈二 議員



教育委員会事務局長 助成制度等の支援は今後検討し
関係機関と調整する



中学校の学校給食

質問 学校給食に対して、アレルギーの届けを出しているお子さん達について幼稚園、小学校、中学校の状況は。

事務局長 アレルギー疾患生活管理指導票を出しているのは、こども園10人、小学校15人、中学校6人である。

提出を受けた後、保護者との面談により個別の指導プランを作成し、教職員間で情報を共有している。

質問 和木町においてアナフィラキシー症状が出た事例はあるのか。またアナフィラキシー補

助治療薬エピペンの講習は。

事務局長 学校給食に起因するアナフィラキシーを発症した事例はない。

エピペンの注射の研修は、園、小、中の教職員を対象に毎年4月の月上旬に実施している。

質問 現在学校給食でアレルギーの対応ができず、お弁当を持参している子どもさんの人数は。

事務局長 年間を通して、学校給食の提供を受けている代わりに、毎食お弁当を持参している子どもさんは1人で、その他は、指導管理表の品目に対して献立表で判断して、おかずとお弁当を持参してきている。

質問 アレルギー疾患生活管理指導票を提出している方への町の支援状況は。

事務局長 医師が発行する文書経費について、一件当たり3千円を上限に補助している。

*アレルギー対応のお弁当への補助を

質問 お弁当持参により食費が自己負担となる状況となつている。子育て支援としてお弁当で食物アレルギー対応をしているお子さんへの補助金制度の確立はできないか。

事務局長 アレルギーの原因物質が多岐にわたり、給食を食べられず、年間を通してお弁当を持参しなければならぬという状況になれば、助成制度等の支援について、今後検討する。

具体的な状況を踏まえ、関係機関と調整していく。

きる施設の検討はされているのか。

事務局長 今後、新築する給食センターにおいて、過度で複雑な手順を要する除去食調理の設備設置は困難である。

安全性に配慮した施設整備を検討している。



建替えが計画されている給食センター





インタビュー記事

子供絵画教室インタビュー

将来、何になりたいですか。



藤本真帆さん
(4年生)

イラストレーター・YouTuber



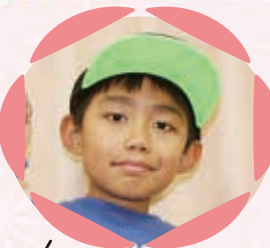
國弘花南さん
(4年生)

イラストレーター



西原結衣さん
(4年生)

イラストレーター



中原ルーク秀佳さん
(5年生)

絵描きになり、YouTubeで絵のチャンネルを作りたい



松本栞那さん
(4年生)

これから考える



稲田芽愛さん
(3年生)

漫画家



灘本葉月さん
(3年生)

声優



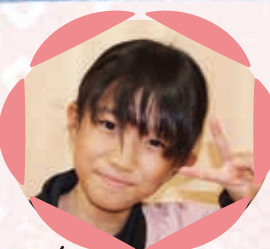
八幡麗愛さん
(4年生)

イラストレーター・YouTuber
素敵なお嫁さん



石川栞奈さん
(4年生)

イラストレーター・YouTuber



永原百華さん
(4年生)

イラストレーター・YouTuber
薬剤師



久保椿さん
(3年生)

漫画家



原咲良さん
(2年生)

漫画家

発行責任者
議長 兼 本 信 昌

広報広聴委員長
灰 岡 裕 美

広報部
森脇 明美 中村 充子
上田 丈二 津島 宏保

編集後記

新型コロナウイルスの感染状況が沈静化しないまま、令和4年が終わりました。昨年は議員が町民の皆さまと触れ合い、声を聞かせていただく機会が減った事を、心から残念に思います。

けれども、この状況下で2年ぶりに「議会町づくり懇談会」を開催できたことは議員一同にとって、大きな刺激になりました。今回の町づくり懇談会は初めての試みとして、女性の皆さんに集まっていただき、多くの課題やご意見を聞かせていただきました。

活発な意見交換の場になったことを嬉しく思うと同時に、活動することにより課題も見えてきました。今後、この経験を活かして議会活動に取組みたいと考えています。

未だコロナウイルスの状況は収束していませんが、感染予防に努めながらコロナ後の生活に向けて考え、一歩ずつ踏み出していきたいと思えます。

(森脇 明美)